クレア支部

外国人材に選ばれる熊本を目指して
～TSMC 進出に伴う環境変化と多文化共生のまちづくり～

熊本県観光戦略部観光国際政策課

日本における在留外国人数は、341 万 992 人（2023 年 12 月末時点）と、過去最高を記録しています。熊本県においても同様に推移しており、同時点の在留外国人数は 2 万 5,589 人、外国人が占める割合も 1.5％と、共に過去最高を更新しました（数値はいずれも法務省在留外国人統計による）。

熊本県は、農業生産額が第 5 位（2022 年）となるなど、全国有数の農業県であり、近年、農業分野を中心として東南アジアなどからの技能実習生が急速に増加していました。加えて、台湾の半導体メーカー TSMC の工場が進出するなど、多文化共生社会の実現が急務となっています。

今号では、このような劇的な環境変化の中、外国人材に選ばれるために、多文化共生のまちづくりを進める本県の取り組みをご紹介します。

TSMC 熊本工場（JASM）

地域で支える多文化共生

熊本県では、在留外国人や市町村などからの質問や相談に対応する「熊本県外国人サポートセンター」を、2019 年 9 月に設置し、専門の相談員によるきめ細かな支援を行ってきました。

一方で、在留外国人が、地域住民の一員として安心して働き、暮らしていくためには、地域社会の理解を得ることが何よりも重要であると考えています。そこで、県では、住民に最も身近な市町村が、地域における多文化共生推進拠点として機能するよう、市町村が行う「外国人受入連絡協議会」の設置や、住民交流型の「地域日本語教室」の開催などを積極的に支援してきました。

その結果、現在までに県内 6 つの市町村で協議会が、15 市町村で日本語教室が運営されるようになりました。

外国人受入連絡協議会（菊陽町）

加速する台湾との交流

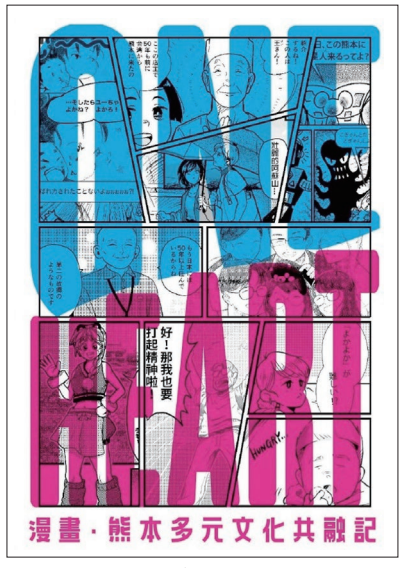
TSMC 駐在員の本格的な赴任に伴い、特に台湾人からの生活相談が増えることが見込まれたことから、2023 年 8 月に外国人サポートセンター内に新たに「台湾相談ホットライン」を設置しました。現在、熊本在住歴が長い台湾人相談員が中心となって、駐在員およびそのご家族などからの問合せに丁寧に対応しています。

台湾相談ホットライン

さらに、熊本と台湾の交流促進の機運を高めようと、民間企業・団体主催の台湾交流イベントの実施を支援しました。特に、2023年9月29日から10月1日まで、熊本市中心部の花畑広場において開催された「KUMAMOTO台湾祭」は、総来場者数が延べ7万3,000人を数えるなど、大きな盛り上がりを見せました。

KUMAMOTO台湾祭

そして、マンガを用いた多文化共生の情報発信も行いました。台湾の漫画家3名が実際に熊本に滞在し、熊本の漫画家と交流しながら、初めて熊本で生活することへの戸惑いや、外国人と接する率直な気持ちや喜びなどを、お互いがマンガで表現したものです。マンガ集は日本語版と繁体字版が発行され、熊本と台湾の書店などにて配布されたほか、オンラインでも配信され、好評を博しました。



多文化共生マンガ

「KUMAMOTO KURASU」

2019年に熊本県とJICA（国際協力機構）は、連携協定を締結し、地方創生や外国人材受入に関する協力関係を強化しました。

その取り組みのひとつとして、2023年に、JICA熊本チーム、県内の外国人材受入企業、外国人支援団体、外国人コミュニティー、そして県などが参画する「KUMAMOTO KURASU」を立ち上げました。

KUMAMOTO KURASUは、「多彩なアクターが共鳴・共創し、多様な人材が、共に学び（CLASS）、暮らす（KURASU）」ことを目指し名付けられました。

各メンバーが、「できる・やりたい」ことを持ち寄り、ネットワークを広げることで、外国人材に「選ばれる熊本」の実現を目指して、日々活動を続けています。

KUMAMOTO KURASUチラシ

熊本の未来を支える「外国人材に選ばれる場所」になる

本年2月にはJASM（TSMCの日本子会社）が開所し、また第2工場も県内に建設されることが正式発表されるなど、熊本への半導体関連企業の集積はますます進んでいます。

国籍や民族の異なる人々が、互いの文化的な違いを認め合い、対等な関係を築きながら地域社会の中で共に生きていくことが、今後ますます重要となることは間違いありません。

外国人材に「選ばれる熊本」となれるよう、地域住民と外国人の誰もが安心・安全に暮らせる多文化共生のまちづくりを、より一層進めてまいります。